

# 大風一過 怠業の跡

## 静穩か 不穩か 警戒は愈々嚴也

昨日寂しき裡に作業を開始せる製鐵所

海のものか山の物か経過を  
見なければ何とも判らない

### 主謀者に

## 令狀執行

### 假豫審廷

### 憲兵隊

### 昨日は寂し

## 作業を

### 警戒依然

### 平鋼及鍛冶

### 更に各地より

## 憲兵増派

### 憲兵五十二

### 應援警

### 官は無慮五百四十 六名に達したるが更に

八幡製鐵所に於ける職工怠業は  
已報の如く七日午後六時の製鐵  
所の回答と同時に同夜及翌八日  
の晝勤衣動迄特種の要務を命ぜ  
られたる職工の外全部公休を命  
ぜられたるより製鐵所内は殆ど  
職工の影なく同夜は何等の異動  
なく一夜を明し八日は中央汽機  
及煉鐵爐の林立せる大煙突より  
僅かに吹出す煙の命脈を保ち  
れる位にて頗る静寂を極めたる  
此種製鐵所内は勿論八幡市内  
に五百名に近き職工を擁する  
製鐵所の消滅を以て第一  
の警戒に警戒された  
が七日夜の夜勤が初戒工は合計  
五百三十五名、夫二百八十七名  
のしが罷工主謀者等は尙巧に  
警戒線を潜行突  
破して構内各所  
に危険物を装置  
し軌條の上に鐵  
塊を横たへ其他種々の  
原案を加へたるが大事に至ら  
ずして八日の朝を迎へたり

今日の大照休職中に當り勞友會  
其他の者にして八幡署に引致さ  
れし者は六十名に達せんとし其  
内一應取調べを受けたるのみに  
て放逐せられし者もありたるが  
群衆の取調進行と共に既報の如  
く一色兒玉兩檢事の  
出張を切掛けに引  
正入幡署に出張し來り  
尙ほ高岡地裁判所より金子  
檢事飯塚 岡裁判所より後  
藤 檢事の應援を求め引續き  
調りなかしが七日夜半に至り  
淺原勞友會長以  
下左の七名は遂  
に檢事の起訴を  
受け同時に令狀  
を執行せられ之れが爲め  
小倉區裁判所より八日午前十時

自働車にて平田河野兩審判  
数名の書記を従へて八幡に來り  
直に八幡署に於て  
假豫審廷を開き取調べ  
を開始し一方檢事局と打合せの  
上更に自動車を驅り八  
幡市中某々方面に向  
け嚴重なる家宅捜査  
を行へり  
淺原健三 ▲副會長  
西園健太 ▲全幹  
事吉村眞澄 ▲全廣  
海榮一 ▲全坂本央  
▲全鳥井重樹 ▲福  
住芳一  
大罷工問題警戒の爲縣下各署  
に八日迄來援せる 應援警  
官は無慮五百四十  
六名に達したるが更に  
東  
京憲兵司令官の命  
依り八日廣島岡  
姫路久留米の々  
憲兵隊より都合五十三  
の憲兵來援し直ちに所内及所  
格別不  
警戒依然  
後九日の作業開始第一日は明  
け渡れり八幡署にては當日の  
果を把握し製鐵所工場内に  
所に依然として水も漏るる嚴  
なる警戒の網を敷き萬一を期  
たるが職工は豫想以上  
に入場し各工場に到り伍  
組長等より極力作業の徳意を  
け職に就きたるが同所最も大工  
場にして重大視せられし修繕  
場にて職工總數四百七十五名の